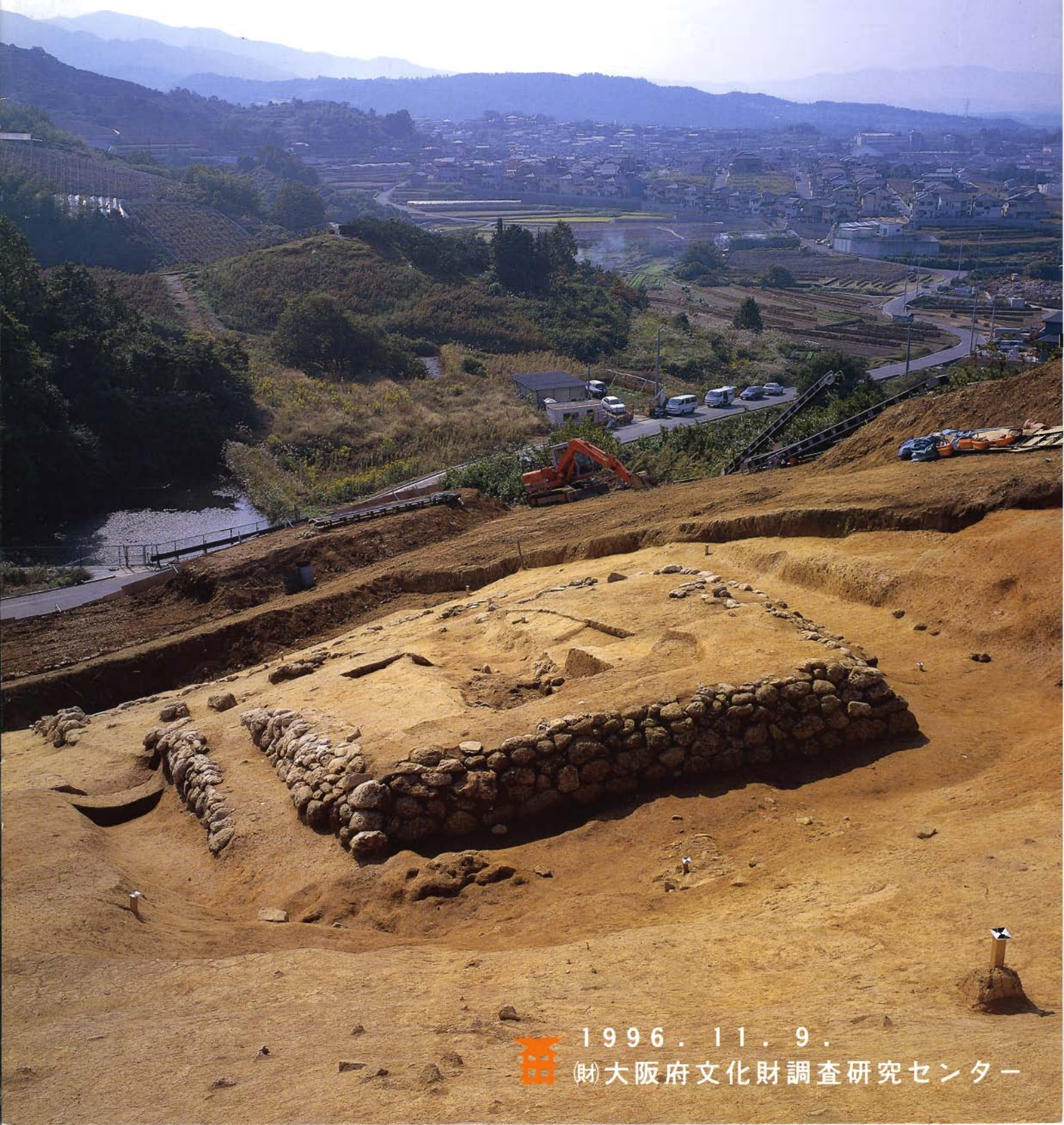


だ す だん こ ふん ぐん ちょう さ
田須谷古墳群の調査



1996. 11. 9.

(財)大阪府文化財調査研究センター

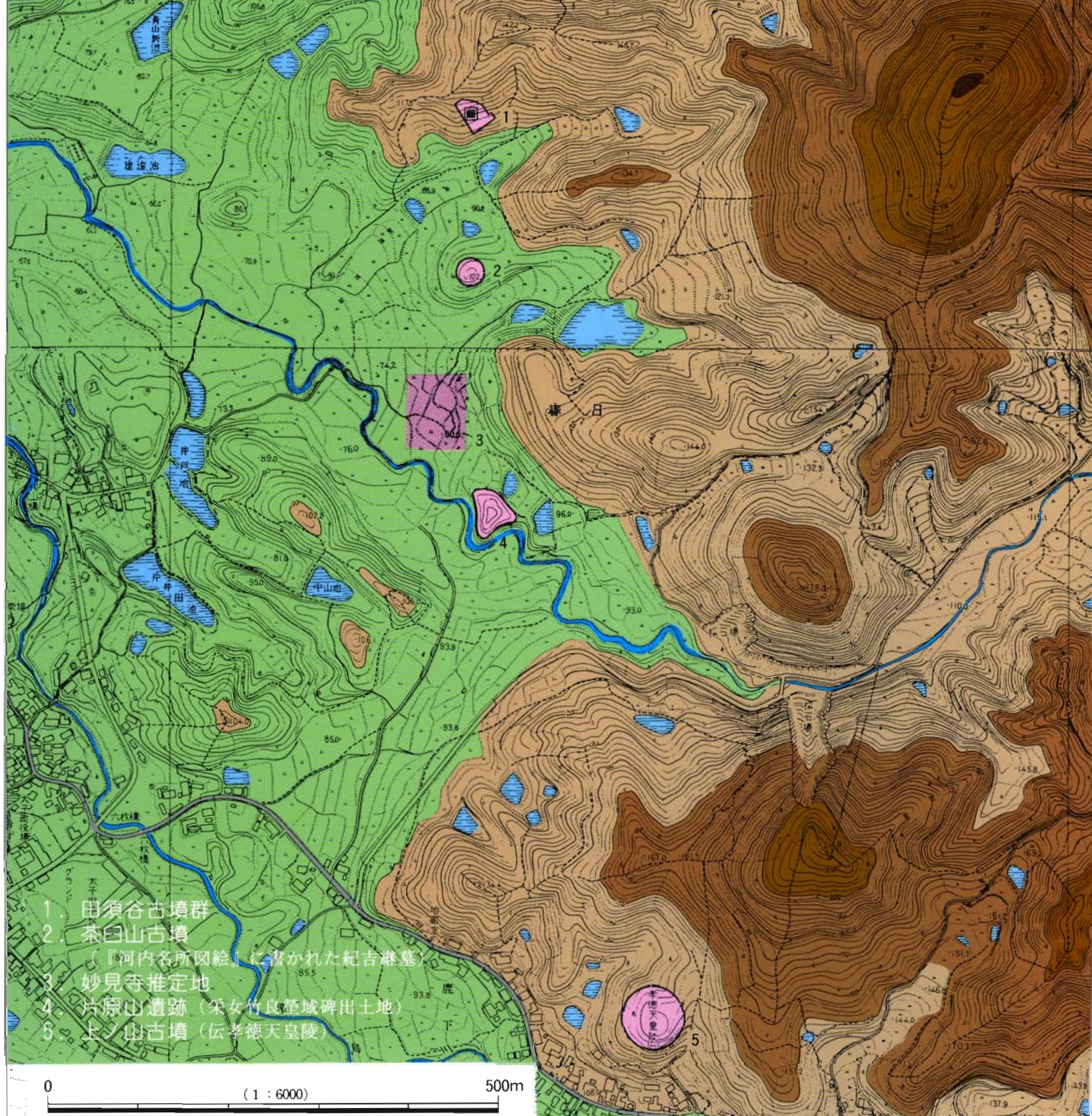
だすだんこふんぐん しゅうへん 田須谷古墳群の周辺



田須谷古墳群は大阪府の東南部、太子町春日の田須谷にあります。古墳群は仁王山のふもとにある柏峯から西にのびる丘陵の南斜面につくられています。

この古墳群からは南に古代の国道である竹内街道をはじめ、紀吉継の墓誌を出土したとされる茶臼山や采女竹良の埴域碑が出土したと考えられている片原山、さらには妙見寺と呼ばれる古代寺院の推定地を望むことができます。

「近つ飛鳥」と呼ばれるこの古墳群の周辺地域は遺跡が多く、その中でも磯長谷には聖徳太子や日本初の女帝である推古天皇などの王族の墓が多いことから、「王陵の谷」と呼ばれています。



▲田須谷古墳群周辺の遺跡（昭和36年の地形図を使用）

ちょうさ 調査のあらし

だすだんこふんぐん はつくちようさ みなみはん どうろ けんせつ さきだ
田須谷古墳群の発掘調査は、南阪奈道路の建設に先立っ
ておこな
て行っているものです。

こんかい ちょうさ しゅうへん ち いき ふく
今回の調査では、まず周辺地域を含めておよそ80ヶ所
のしゅくちようさ おこな い せき う む かくにん
の試掘調査を行い、遺跡の有無を確認しました。

その結果、今回の調査地の下の方から、飛鳥時代から
な ら じ だ い いま ねん ねん ま え こ ろ ど き
奈良時代（今からおよそ1400年～1300年前頃）の土器が
すうてんしゅつど きゅうりよう う え ほう なん い せき う
数点出土し、丘陵の上の方に何らかの遺跡が埋もれてい
ることが分かりました。

そこで斜面全体に範囲をひろげて調査を行ったところ、
きゅうりよう みなみしゃめん いま ねん ま え こ ろ つく こ ふん き
丘陵の南斜面から今から1350年前頃に作られた古墳2基
を発見することができました。これらの古墳は盗掘や耕
作などのえいさよう かんぜん のこ
影響で、完全には残っていませんでしたが、ぜん
ほうこうえん ふん つく のち しゅうまつ き こ ふん よ
方後円墳が作られなくなった後の終末期古墳と呼ばれる
ものであることが確かめられました。

1号墳は丘陵の南斜面を大きく削りとして平坦面を作
りだし、その中に凝灰岩と呼ばれる白い石を石垣のよう
に積み上げ、南から見ると3段に見えるように作られた
ぜんこくてき み ひじょう めずら こうぞう ほうふん しかく かたち
全国的に見ても非常に珍しい構造をもつ方墳（四角い形
をした古墳）であることが分かりました。

1段目と2段目の列石は南側を正面としてコの字形に
つく
作られているもので、3段目の列石だけがしかくくまわっ
ていたことが分かりました。3段目列石の北側は比較的
よくのこ いっぺん やく たか やく はか
良く残っており、一辺が約7m、高さは約70cmを測りま
す。

こ ふん ちゅうおう み し しゃ まいぞう せきしつ
古墳の中央から見つかった死者を埋葬していた石室は、
とうくつ などによってかなり破壊されていましたが、床面に
し いし
敷かれた石などのいちぶ のこ
一部はかろうじて残っていました。

2号墳は1号墳のすぐ東に作られた古墳で、盛土は完
ぜん な
全に無くなっており、石が積まれていたかどうかは分か
りません。しかし、きたがわ みぞ み
北側からは溝が見つかり、1号墳と
おな ほうふん
同じ方墳であったことがかくにん
確認されました。石室は1号墳
とおな とうくつ う
同じように盗掘を受けており、そのほとんどが破壊さ
れていました。



▲調査前の発掘現場（南側の茶臼山から）



▲二上山と調査地（西から）



▲空から見た田須谷古墳群



▲調査風景（1号墳3段目列石の発掘）



▲ 1号墳の3段目列石北西コーナー（西から）



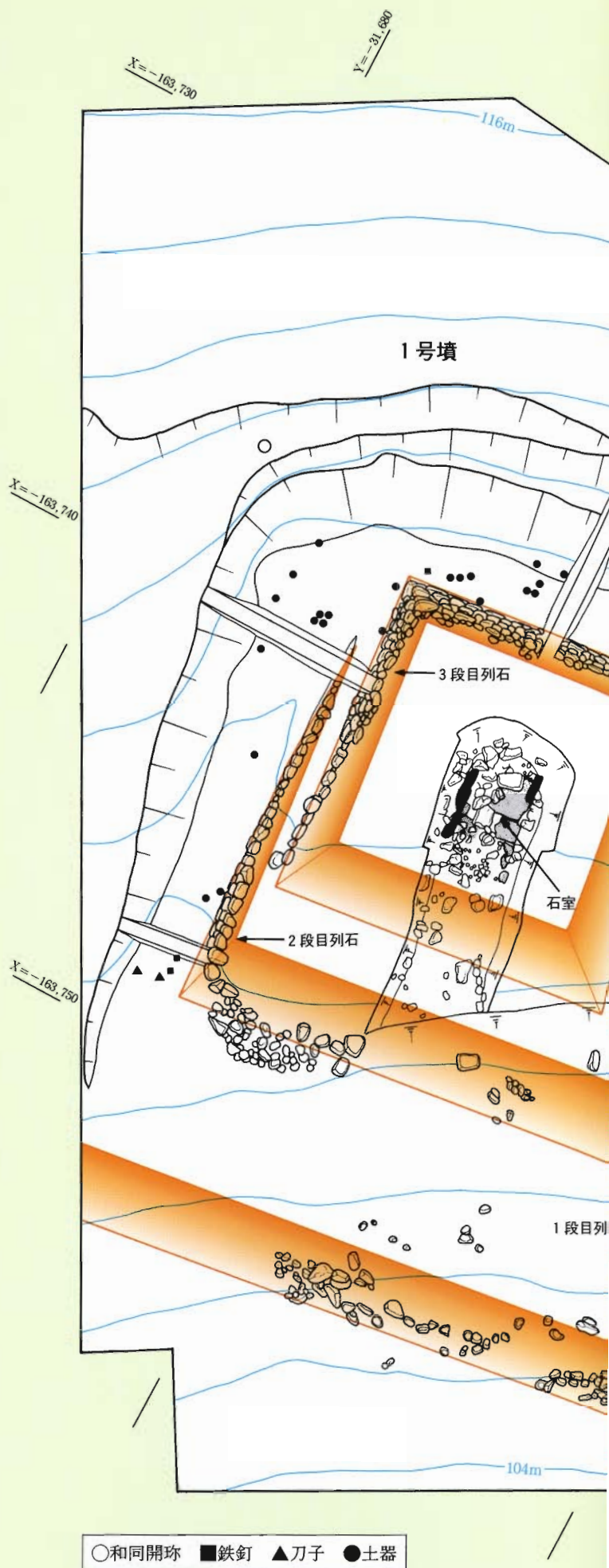
▲ 1号墳北側周溝の土層断面



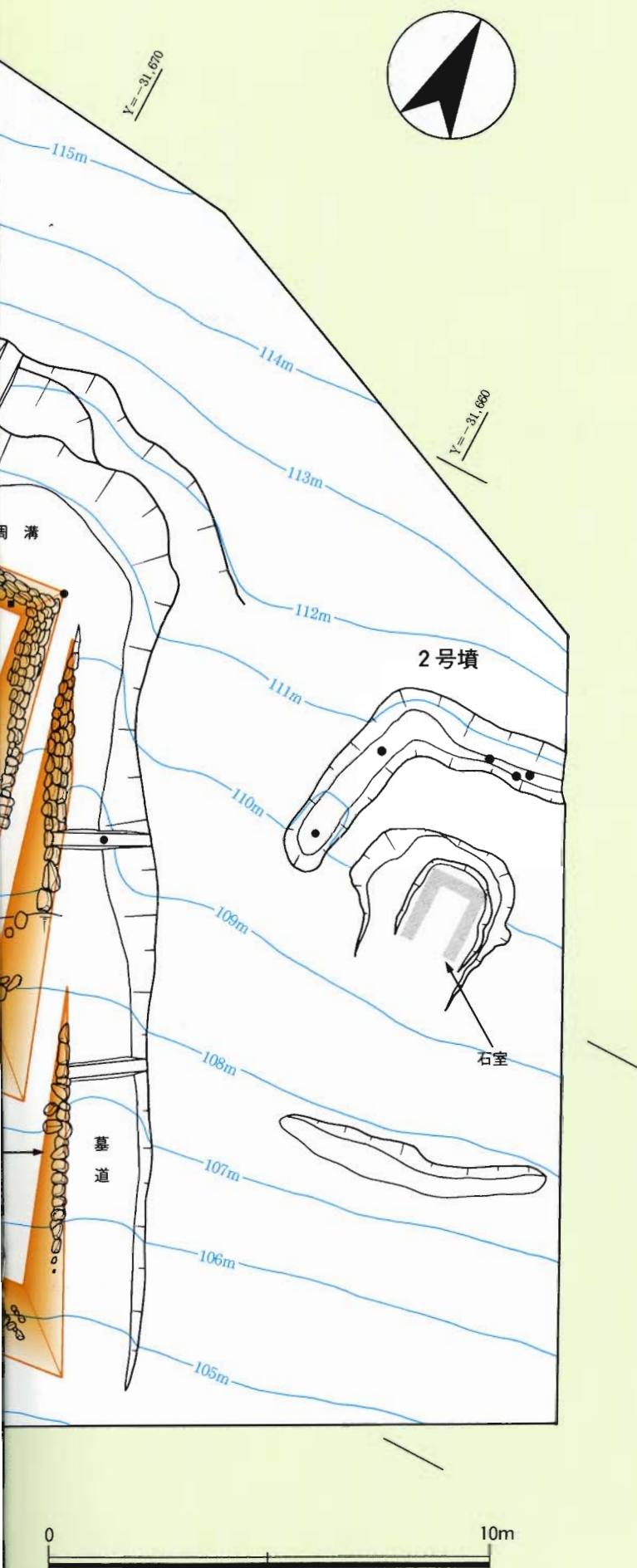
▲ 1号墳石室（盗掘で大半がつぶされている）



▲ 1号墳石室の床面（四角い切石が敷かれている）



だ す だ ん こ ふ ん ぐ ん ち ょ う さ
田 須 谷 古 墳 群 の 調 査



墳群略測図



▲ 1号墳3段目列石の北東コーナーと土器出土状況



▲ 東から見た1号墳



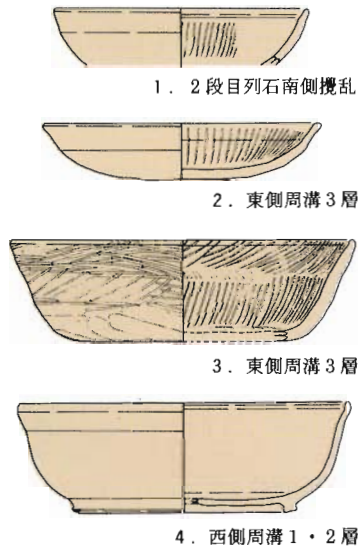
▲ 2号墳（北から）



▲ 2号墳の周溝内土器出土状況

しゅつど いぶつ 出土した遺物

1号墳の周溝からは、須恵器・土師器と呼ばれる土器と、鉄の釘や小刀が出土しました。そのほか、周溝の北西からは、西暦708年にはじめて作られた「和同開珎」という銅のお金が、7枚重なった状態で出土しました。また、石室内から、表面を赤く塗った石が出土しています。

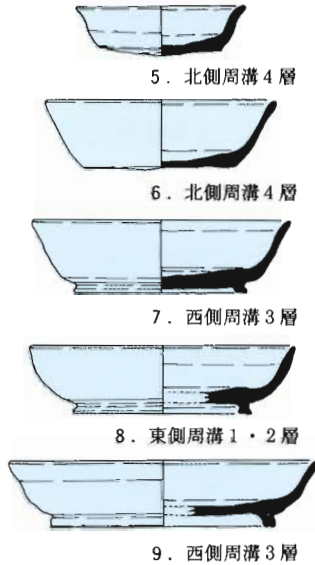


1. 2段目列石南側攪乱

2. 東側周溝3層

3. 東側周溝3層

4. 西側周溝1・2層



5. 北側周溝4層

6. 北側周溝4層

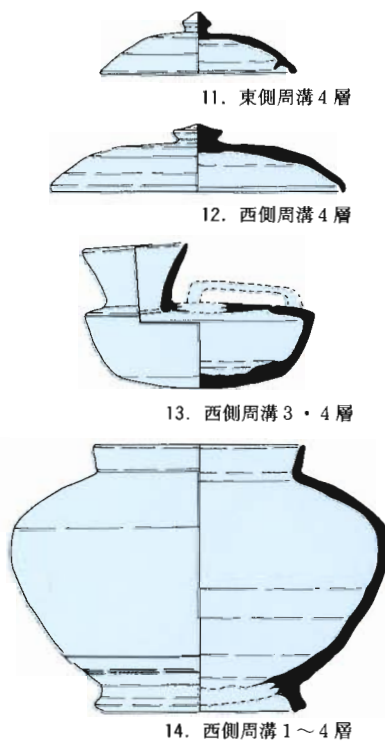
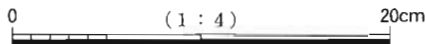
7. 西側周溝3層

8. 東側周溝1・2層

9. 西側周溝3層



10. 北側周溝4層

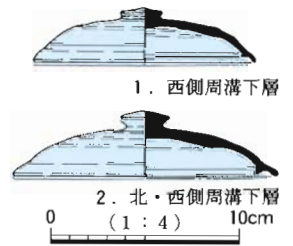


11. 東側周溝4層

12. 西側周溝4層

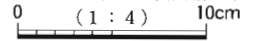
13. 西側周溝3・4層

14. 西側周溝1〜4層

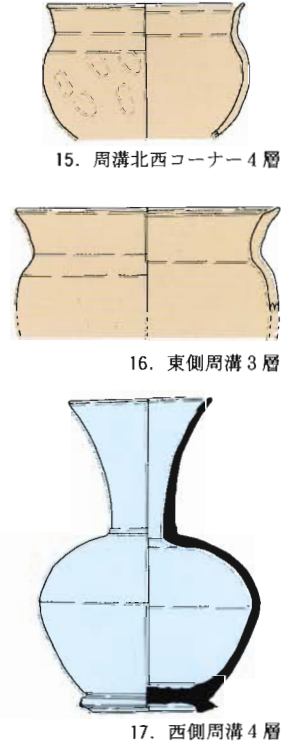


1. 西側周溝下層

2. 北・西側周溝下層



▲ 2号墳出土の土器



15. 周溝北西コーナー4層

16. 東側周溝3層

17. 西側周溝4層

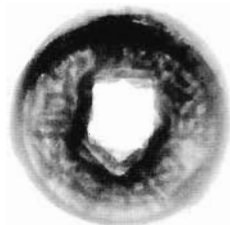
▲ 1号墳出土の土器



▲ 1号墳の周溝から出土した土器

2号墳の出土遺物は多くはありませんが、周溝から時期を推定できる須恵器と土師器が出土しています。

1号墳周溝内から出土した土器には時期幅があり、土器とともに焼け土や木炭が出土していることから、この古墳に近接して火葬墓が作られていた可能性が考えられます。



レントゲン写真



▲赤く塗られた石（1号墳石室出土）



▲赤く塗られた石（部分）



▲和同開珎（7枚重ね）



▲1号墳の周溝から出土した小刀



▲1号墳の周溝から出土した鉄釘

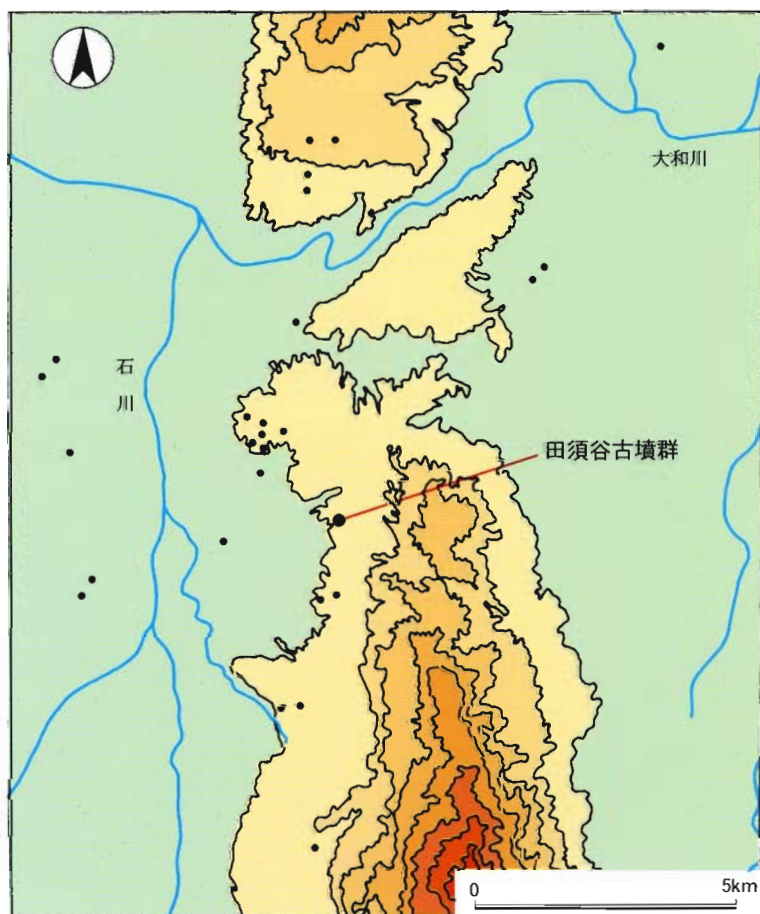
まとめ

今回の調査では、これまでにその存在が全く知られていなかった2基の古墳が見つかりました。

古墳はいずれも7世紀後半（1350年前頃）の終末期古墳と呼ばれる古墳であることが判明し、とくに1号墳は凝灰岩と呼ばれる白い石を3段に積み上げ、南側にはテラスのような平坦面をもっていたことが確認されました。

このような構造をもつ古墳は全国的にも非常に珍しく、同じようにテラスをもつ古墳は奈良県の段ノ塚古墳（舒明天皇陵）や京都府の山尾古墳、鳥取県の梶山古墳などが知られるにすぎません。

これまでも終末期古墳の調査は行われてきましたが、古墳全体を調査の対象としたものは少なく、今回の調査は非常に重要な成果をもたらすこととなりました。



▲同じ頃につくられた古墳の分布図



田須谷古墳群の調査

田須谷古墳群現地説明会資料

発行 財大阪府文化財調査研究センター

〒536 大阪市城東区蒲生2-11-3

小森ビル4階

☎ 06(934)6651

発行日 1996年11月9日

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所